

情報リテラシーⅡ (G2)

更新日：2026/03/25 11:12:42

開講年度	2026	学期	3期, 4期	科目コード	L5210	授業コード	
担当教員	萱津 理佳						
配当	学部/学科	大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科					
	配当時期	—	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

「情報リテラシーⅠ」で習得したICTスキルを基盤とし、大学での学習や研究、実務におけるデータ活用の実践力を高めます。表計算ソフト（Excel）の応用的な関数、データベース機能、クロス集計等の高度な機能を習得するとともに、文書作成ソフト（Word）を用いた長文レポートの構成技法を学びます。さらに、Google Colaboratoryを活用したデータ分析や簡単なAIモデルの作成体験を通して、データサイエンスの基礎やAI技術の社会的利活用についても考察を深めます。

到達目標

1	文書作成ソフトの高度な機能を活用し、学術的な作法に則った論理的で説得力のあるレポートを作成できる。
2	表計算ソフトの利用において、セル参照（相対・絶対・複合）を適切に使い分け、関数のネストや応用的な関数を用いた複雑なデータ処理ができる。
3	表計算ソフトのデータベース機能やピボットテーブルを活用し、大量のデータから必要な情報の抽出や多角的なクロス集計ができる。
4	Google Colaboratoryを用いてPythonの基礎的なコードを実行し、データの可視化や基本的なデータ分析を行うことができる。

キーワード

情報利活用能力, ICT, Word, Excel, データ分析, Python, AIの活用

履修要件

特になし。必修科目。

教授方法（講義／演習／実験／実習／実技）

「講義」「演習」

教員による解説に加え、各ソフトウェアを用いたPC操作の演習を毎回実施する。

授業の形態（対面／オンライン（同時双方向）／オンデマンド／対面とオンライン・オンデマンドの併用）

対面

授業で使用するICTツール（Melly, Glexa, Teams, Zoom ほか）

Glexaほか

アクティブ・ラーニングの要素の有無

有

授業計画

1	ライティングスキル① 長文サポート レポート・論文作成のための応用機能（スタイル・目次・参照等）
2	ライティングスキル② 総合問題 総合練習問題
3	データ分析とその表現① セルの参照方法 基本関数の復習とセルの参照方法（相対参照/絶対参照/複合参照）
4	データ分析とその表現② 関数のネスト スピル機能、関数のネスト、応用的な関数①
5	データ分析とその表現③ 応用的な関数 応用的な関数② エラーチェックと対処方法
6	データ分析とその表現④ グラフ作成の基礎 グラフ作成の基本
7	データ分析とその表現⑤ グラフ作成の応用 様々なグラフ（円グラフ、複合グラフ、散布図など）
8	データ分析とその表現⑥ データの抽出 データベース機能について 並び替えとデータの抽出
9	データ分析とその表現⑦ クロス集計 ピボットテーブルの利用によるデータの集計やクロス分析
10	データ分析とその表現⑧ 総合問題 総合練習問題
11	小テスト データ分析スキルに関する小テスト

12	データサイエンスとAIの活用 社会を支えるデータサイエンスとAI, AIやデータサイエンスとの向き合い方 データ分析の流れ, データの種類と分類
13	データ分析 Google Colaboratory を利用したデータ分析の体験
14	AIモデル作成 Google Colaboratory を利用したAIモデル作成 (文字認識) の体験

教科書・テキスト

基本方針	「情報リテラシー」で使用した教科書を引き続き利用します			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	大学生の「知」の情報・AIスキル	共立出版	2024年4月	ISBN:9784320125780, ¥2,900+税

参考書・参考資料等

Glexa で適宜指示

授業外における学習

- ①授業時間内で理解できなかった内容について復習し、不明点を解決すること。
- ②作成途中の課題は各自で仕上げ、授業で学んだスキルを活用して完成させること。

成績評価

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
課題	50	課題への取り組み姿勢に応じて評価する。	
小テスト	50	小テストを課し理解度に応じて評価する。	
合計	100		

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールでの質問も受け付ける。

受講生に望むこと

ICTの利用は手段であり、目的ではありません。本科目では、単に課題を提出することが目的ではなく、全ての課題に主体的に取り組むことが求められます。また、演習科目であるため、やむを得ない場合を除き、授業を欠席しないこと。

その他・特記事項

近年、データ分析やAIの活用がさまざまな分野で重要性を増しています。本科目を通じて、これらの基礎的な概念や技術に触れ、実社会での活用について考える姿勢を身につけてほしいと考えています。

(実務経験のある教員が授業を担当する場合のみ) 実務経験及びその内容